

久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 234号

平成26年4月28日発行

久慈農業改良普及センター

TEL : 0194-53-4989

FAX : 0194-53-5009

○ 新年度を迎えて ～所長あいさつ～ ○

東日本大震災津波から3年経過し、地域や関係者の方々のたゆまぬ努力で復旧・復興の取り組みが進められておりますが、県としては本年度を本格復興推進年として取り組むこととしております。

さて、2月、3月の大雪によるハウス等の倒壊被害が甚大なものとなり心からお見舞い申し上げます。早期に生産活動が出来るよう関係者とともに支援してまいります。

昨年を振り返ってみますと、

○担い手育成に関しては、新規就農者は13名となり、久慈地域の特産であるホウレンソウ、菌床しいたけ、畜産業に取り組む若い農業者の活躍が期待されます。

また、圃場整備地区及び予定地における集落営農法人、生産組織の活動が活発化し今後久慈地域の効率的な水田営農の取り組みが期待されます。

○産地育成に関しては、若い農業者グループのグリーンバズがホウレンソウ産地に貢献していきたいと生産向上対策の一つである土壌消毒支援活動を行い、産地活性の牽引役として活躍し今後も期待されます。併せて産地振興キャラクターである寒次郎くんの活躍も大いに期待したいと思います。

○農村活性化については、ガチンコ産直甲子園等の取り組みで産地直売所の運営改善が進み、あまちゃん効果も手伝って顧客数、販売額は増加したようです。

また、22名の食の匠で構成するやませの郷食の技研究会が、東北地方における食育活動が評価され東北農政局長賞を受賞されました。久慈東高校食物系列の生徒との実習・交流をはじめ様々な活動が認められ、匠にとって嬉しい意義ある受賞となりました。

所内3チームに関わる話題の一部を紹介しました。

最後に当普及センターでは今回の定期人事異動により、転入者4名が加わり、若手からベテランまで16名(昨年17名、1名減)新たな気持ちで諸課題に対し農家とともに取り組んでまいりますので一年間どうぞよろしくお願い致します。











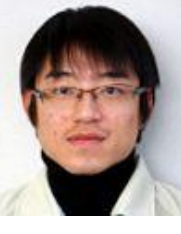

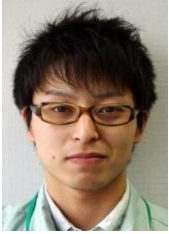
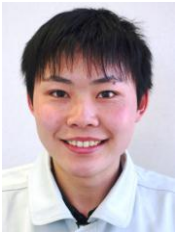




所長 たかはし ひであき 高橋 英明



○ 平成26年度 久慈農業改良普及センター活動体制 ○

今年度は16名体制で、①意欲ある多様な経営体の育成、②産地力強化支援、③農村の活性化支援の3本柱をメインテーマとし、地域課題の解決のためチーム連携により農業者に対する支援を進めてまいります。

【 職員分担 】※(新)転入

マネジメント グループ	 所長 高橋 英明	 普及課長 中村 英明 (農村活性化チーム)	 (新)普及課長 本田 純悦 (産地育成チーム)	 (新)普及課長 佐々木 洋一 (担い手育成チーム)	
	チーム長	メンバー			
①農村活性化チーム ・地域特産品を活かした起業活動支援 ・産地直売所の活性化 ・食文化伝承と農村の魅力発信による農村の活性化	 主任農業普及員 成田 恵美	 (新)技師 田口 礼人	 技師 山形 久美子		
②産地育成チーム ・ほうれんそうを核とした園芸産地の確立 ・花き、果樹の産地育成 ・収益性の高い水田利用推進 ・自給粗飼料等の生産改善による生乳、子牛の低コスト安定生産の推進 ・環境保全型農業の推進と安全安心システムの構築	 主任農業普及員 藤澤 由美子	 主任農業普及員 洞口 博昭	 (新)技師 武田 純子	 技師 村上 大樹	 技師 佐藤 聡太
③担い手育成チーム ・地域を担う経営体の育成 ・活力ある集落営農組織の育成	 上席農業普及員 櫻田 弘光	 主査農業普及員 吉田 昌史	 主査農業普及員 加藤 清吾	 主任農業普及員 佐藤 武博	

☆人事異動情報☆

今回の人事異動により久慈農業改良普及センターから転出した職員は以下のとおりです。

- | | |
|--------|---------------------------|
| 白木 正範 | 退職 |
| 高橋 好範 | 岩手県農業研究センター 県北農業研究所 (軽米町) |
| 三浦 晃弘 | 岩手県農業大学校 (金ヶ崎町) |
| 小田 豊 | 岩手県政策地域部政策推進室 (盛岡市) |
| 熊谷 志紀子 | 岩手県農業研究センター 病害虫防除所 (北上市) |

寒次郎



○ 今年度の転入者（4名）の自己紹介 ○

【①名前 ②出身地 ③担当 ④前任地 ⑤ひとこと】

- ①本田 純悦（ほんだ じゅんえつ）
- ②山形県南部（米沢市）
- ③普及課長（産地育成・地域協働）
- ④岩手県農業研究センター
- ⑤7年ぶりに戻ってきました。昨年は「あまちゃん」を見ながら懐かしさにひたっていましたが、今年は「あまちゃん」にからんだ産地づくりに邁進します。

- ①佐々木 洋一（ささき よういち）
- ②盛岡市
- ③普及課長（担い手・集落営農）
- ④中央農業改良普及センター西和賀普及サブセンター
- ⑤雪深い西和賀から異動して参りました。久慈地域の特徴や新たな動きを踏まえた、担い手育成の取り組みを、皆で考え連携しながら取り組みたいと考えております。よろしくお願いたします。

- ①武田 純子（たけだ じゅんこ）
- ②盛岡市
- ③産地育成チーム（野菜）
- ④岩手県農業研究センター県北農業研究所
- ⑤久慈農業改良普及センター産地育成チームに配属された武田です。普及センターは初めてですので、色々と勉強しながら頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

- ①田口 礼人（たぐち よしひと）
- ②二戸市
- ③農村活性化チーム（ヤマブドウ）
- ④岩手県農業研究センター
- ⑤普及センター勤務 1年目になります。前任地ではブドウを担当し、ヤマブドウについても収穫時期を楽しみにしています。わからないことも多く迷惑をかけると思いますが、よろしくお願いたします。

○ 長い間、ありがとうございました ○

岩手県農業農村指導士認定期間満了に伴い、知事より感謝状が贈呈されました。



野田村 中野千江(なかのちえ)さん（平成10年度認定）

【経歴】昭和 56～平成 13 年、野田村消防隊。平成 4 年、財団法人岩手県消防協会表彰。平成 10 年～野田村民生児童委員。平成 13～15 年、久慈地方生活研究グループ協議会副会長。平成 14 年～産直ばあふる役員（監事）。





洋野町 城下ハナエさん（平成16年度認定）

【経歴】平成7～9年、地域婦人部書記会計、種市支部農協女性部理事。平成7～17年、農業体験で生徒指導およびボランティア活動で宿泊体験（盲学校）受け入れ。平成8年、第1回女性洋上セミナー研修参加。平成12～17年、種市生活研究グループ協議会副会長。平成23年～、洋野町生活研究グループ協議会会長。平成22年～、久慈地方生活研究グループ協議会副会長。



野田村 米田やす(まいたやす)さん（平成18年度認定）

【経歴】平成3年、米田部落会婦人部長。平成7年、北リアスの会会長。平成7年、産直「安来」代表就任。平成11年、豆腐工房代表。平成16年、野田村グリーンツーリズム推進協議会副会長。平成14年、野田村農業委員。



平成26年4月21日に行われた「岩手県農業農村指導士感謝状贈呈式」の様子です。城下ハナエさんが出席されました。

これからも地域内外でのご活躍をご期待申し上げます。



○ 農薬の適正使用について ○



1 農薬を使用する前に以下の内容についてラベルで確認しましょう！

- ・使える作物名・希釈倍率・使用量・使用方法を確認。
- ・注意事項をよく読み、必要に応じた防護装備を装着（保護メガネ、手袋など）。
- ・農薬は適切な場所に保管。



2 農薬を使用したら必ず記帳しましょう。

農薬を使用した場合は、使用した農薬名、月日、作物名、濃度や量などを記帳しておきましょう。記帳することで使用回数や収穫できる日数の確認が可能となり、また使用基準を守っていることの証明になります。

4/15~6/15は

春の農作業安全月間

<平成26年度スローガン>



豊作を 無事故で迎える いわての農業

トラクターでの作業中の事故	8 件	<p>昨年度の県内で発生した農作業中の死亡事故は 14 件で、そのうち 2 件は久慈市で発生しています。</p> <p>トラクターや軽トラでの作業中の事故は、<u>エンジンをかけたままに停止していた場合</u>に多いです。停止して作業を行うときは、エンジンを切る、サイドブレーキをかけるなどの対策を行いましょ。また、いざ巻き込まれた時のために、<u>家族など周りの人にもエンジンの止め方を教えておく</u>ことも大切です。</p>
草刈りなどの作業中の事故	2 件	
軽トラでの作業中の事故	2 件	
その他	2 件	
死亡事故合計	14 件	

↑ 昨年度の岩手県内の農作業事故

○機械の始業前点検

作業を行う前に農業機械の点検は行いましたか？整備不良の機械での作業はとても危険です。定期的に点検することを習慣づけましょう。農業普及4月号にも機械の点検の記事がありましたので、参考にしてみてください。



○反射材等の装着

暖かくなってくると、暗くなるまで作業することも多くなってくると思います。反射材などをつけて自分の場所を知らせることで、道路での接触・追突などの危険を減らしましょう。

○家庭や地域での取り組み

事故防止には、日常の『声かけ』が大切です。皆で事故に気をつけていくために、家族や近所の人にも「怪我しないように気をつけて」と声を掛け合っていきましょう。



家族を守るのは
あなたの『意識』から

春は乾燥しやすく、山火事が多い時期でもあります。

山火事に注意!!

